

## 事業の背景・目的

ナガエツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイについて、手賀沼及びその流域河川のうち千葉県が水草刈取船による駆除を実施した箇所  
で、夏季以降にほかからの漂着や再繁茂を除去することにより、翌年春季の在来種との生育競合の緩和、翌年下記の再繁茂量の低減を目指す。  
また、地域住民・団体等と連携した防除・監視体制の構築することで、現在手賀沼で小規模の駆除を行っている地域団体を中心に、ナガエ  
ツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイの防除への地域住民・団体等の更なる参画を促す。

## 事業の内容

### 外来水生植物再繁茂監視・駆除

地域住民及び特定非営利活動法人の会員を雇用し、千葉県が水草刈取船による駆除を実施した  
箇所のうち、泥深くなく、危険が少ない場所で、漂着・再繁茂するナガエツルノゲイトウ及びオ  
オバナミズキンバイを220kg(乾重量)除去した。

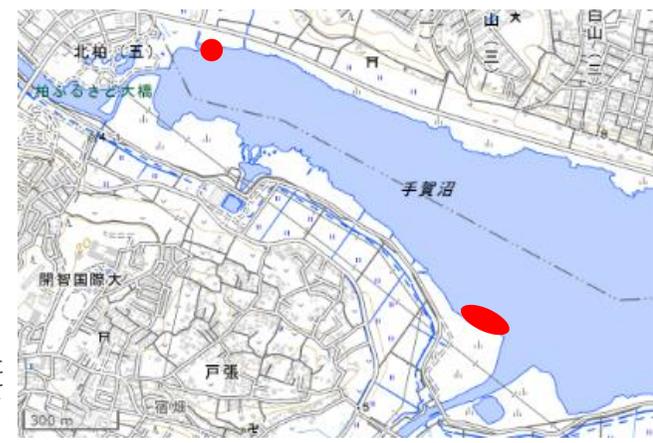


ヨシ帯沿いを買い物かごを持って移動し、  
漂着・再繁茂した外来水生植物を除去

除去中



除去後



作業場所  
(地理院地図に  
赤丸を追記して  
作成)

## 得られた成果

- ・台風など強風後に漂着した大規模な群落は、人手で作業船に載せることができず、除去できなかった。4名(内3名水中作業)体制で3時  
間の除去作業では、漂着量によるが、ヨシ帯沿いの延長190m程度の作業が可能だった。
- ・千葉県と試行結果を共有し、令和5年度の千葉県の駆除の時期や内容、千葉県の駆除後の当協議会での監視・駆除の方法について検討した。
- ・今回は、8月~12月で2週間に1回、計10回作業したが、人手で実施可能な範囲で効果を高めるためには、11月までは水草刈取船に  
よる駆除を行い、台風などの影響を受けにくく、植物の繁茂の勢いが衰える12月以降に人手のみでの駆除活動を実施するほうが良いと考え  
られる。本事業において検討した方法・時期等に必要な改良を加えつつ、千葉県及び地域住民・団体等と連携して監視・駆除を実施してい  
きたい。